

東日本大震災から2年

大槌町で合同追悼式

東日本大震災から2年となった3月11日(月)、大槌町城山公園体育館で、「東日本大震災津波岩手県・大槌町合同追悼式」が行われ、達増知事や遺族らおよそ800人が参列しました。式では地震が発生した午後2時46分に全員で黙祷しました。(3/11 ニュースエコーより)



鎮魂の音響かせ

大槌町江岸寺に新しい鐘

重さ600キロもある真新しい鐘。奈良・薬師寺などの支援で滋賀県でつくられ、津波とその後の火事で大きな被害を受けた江岸寺に贈られました。大槌町のお寺では新しい鐘をお披露目して地域をまわるならわしがあります。鐘は11日午前、トラックにのせられて町内を巡り、震災2年を迎えた地域に鎮魂の音を響かせました。鐘に記されたのは「梵鐘の音に想いをのせて」というメッセージ。その音には「追悼」や「復興祈願」などつく人それぞれの思いが込められることとなります。(3/11 ニュースエコー)



大津波の恐ろしさを後世に

大船渡「津波伝承館」オープン

大津波の恐ろしさを後世に伝える、津波伝承館が被災を免れた、さいとう製菓の本社社屋に8日仮オープンしました。館内では震災発生時の街を記録した動画が上映されているほか、被害を受けた街を撮影した写真パネルも展示され、訪れた人に津波の恐ろしさと迅速な避難を訴えています。また伝承館では体験ツアーも行っていて、この日はベトナムの大学生たちが津波の浸水地を訪れ、地元のガイドから津波が街を襲った時の様子について説明を受けていました。(3/8 ニュースエコー)



それぞれの3.11

被災地で夜も続いた祈り

東日本大震災の発生から2年となった3月11日、県内では夜も様々な行事が行われ、鎮魂の祈りや復興への願いを込めました。大槌町では「3.11」とかたどられた舟の形のあんどんを飾るアートプロジェクトが行われました。「とうほくこよみのよぶね」と名づけられたプロジェクトはアーティスト、日比野克彦さんが中心となって行っています。被災した小学校の跡地に飾られたあんどんは、復興への願いを込めた色とりどりの切り絵が貼られ、夕闇せまる港をバックに鮮やかに浮かび上がりました。一方、釜石市のJR釜石駅前にはおよそ1000個のキャンドルが飾られました。やわらかな灯りがゆらめく中市民などが次々と訪れ、鐘を鳴らして鎮魂と街の復興を祈っていました。(3/12 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122